

市長と若者との座談会

1. 日 時 令和5年9月11日(月) 14:25～15:20
2. 場 所 mark MEIZAN
3. 出席者 市長、大学生・短大生 9名、若手社会人 4名
4. 意見交換の内容

テーマ：「若者にとって鹿児島市がどういったまちであれば住み続けたいと思うか」

- ・ 住む都市を選ぶ際にポイントとなることは？
- ・ また、具体的にどうすれば鹿児島に住みたいと思う若者が増えるか？

【交通】

- ・ 交通は、日々の生活に欠かせないものであり、利便性のよい所に住みたい。
- ・ JRは大雨が降ると運休し、路線バスの便もないため、移動手段がなく、通学できず授業を欠席せざるを得ない。(同じルートでも)交通手段の選択肢が複数あるとよい。
- ・ 公共交通の便数の少なさや夜遅い便がないため、仕方なくやりたいことを諦めざるを得ないこともあった。
- ・ 鹿児島市のどこに住んでも穏やかで快適に生活できる環境が確保されていること。中心市街地の再開発だけでなく、住宅地の交通機関や公共施設の配置を充実させることが、鹿児島市に住みたい・住み続けたいと思う理由になると考える。
- ・ 「あいばす」は地域住民や家族も利用しており、自身の老後を考えても便利。ローカルなエリアを走る公共交通機関は残してほしい。
- ・ 交通費の安さ。通勤通学だけでなく、買い物や移動など日常にかかる費用につき、生活に直結するため重視する。
- ・ 市電沿いの運転に対する不安もあり、環境面や安全面のリスク、車の値段も高く、維持費もかかるので、車を持つことは考えていない。一方で、週末のドライブなどエンタメの1つとして機能している面もあり、車を持つ人へのうらやましさもある。

【生活環境・インフラ】

- ・ 東京では、中心部だけでなく住宅地の小さな公園も清潔に保たれており、土日だけでなく平日も大人が一息つける空間となっている。桜島にはそのような場がないので、あったらよいと思う。
- ・ 清潔感があること。清潔感とは、汚くないことが大事で、大都市と比べて本市はきれいであり、今のままであってほしい。
- ・ 住む人の人当たりの良さ。鹿児島は、広告物を見ても芸能人ではなく一般の方が出演するなど、住む人の顔が見えるので、このまちに住んでみたいと思う。

- ・ 子育てしやすいまちであること。幼稚園・保育園が家に近いことや、一時的な支援でなく給食の無償化や学費の免除など恒久的な支援が重要。
- ・ ライフステージが変わっても住み続けられる街であること。それぞれの世代ごとに異なるニーズをなるべく網羅し、満たしていることが重要。
- ・ 水道など当たり前のことにどれだけお金をかけ、守ってくれるかが大切だ。少子化対策の必要性は以前から言われていたにもかかわらず、いよいよ大変な状況になってから慌てているが、インフラもこれと同様に“後回し”にしては、そのまちに住めなくなってしまう。

【レジャー・エンタメ】

- ・ まちなかの公園でサッカーやバスケの3on3が楽しめたり、スタジアムができることで、地域の象徴となり、休日に楽しめるまちになるのではないかな。
- ・ 遊び先や仕事の選択肢の多さ。選択肢が限られると妥協してしまい、よくない。地域の人々が愛着を持つまちになってほしい。
- ・ 幅広い年代に愛され、景観にもマッチしたテーマパークなど人工的なランドマークがほしい。交通手段が整い、誰からも親しまれるものになってほしい。
- ・ お店や娯楽施設の選択肢と移動手段の選択肢が多いこと。2つを掛け合わせることで、まちの活発性が増すのではないかな。
- ・ 非日常を体験できる場所があること。海に面したまちでは、景観を生かしたレストランなど非日常を味わえるスポットが多いが、本市の場合、桜島を望む景観や桜島から市街地を眺める景色が生かされていない。
- ・ 街並みや景観は地域ごとに異なっても、同じような機能を持つ商業施設が多く、施設の内容としては変わらないように感じる。その地域ならではのイベントや世代に応じたイベントなどあるとよいのではないかな。
- ・ 好きなアーティストのライブが熊本までしか来ない。若者の生活の中で「推し活」は重要で、県外へ出かける交通費のウェイトも大きいので、交通費を節約するため東京や福岡に住む同世代も多い。有名なアーティストのライブが来る場所が鹿児島にあれば、残ってくれる若者も多いのではないかな。

※「推し活」がある＝7割程度、「推し活」のため県外までいったことがある＝6割程度

【仕事】

- ・ 自分の好きな仕事ができるか。子育てや教育の機会だけでなく、大人も様々な選択ができることが重要。選択肢が限られると視野が狭くなり、できることも限られ、できる仕事も限られてくる。その観点で、一度外に出ることは重要だと思う。
- ・ 遊び先や仕事の選択肢の多さ。
- ・ 経済的に苦しまずに生活したい。その上で、仕事をしている時間も人生の大切な時間であり、やりがいを感じる仕事に就きたい。

